

福知山市議会「産業建設委員会」 行政視察研修報告書

1 視察日程 令和6年11月19日（火）～20日（水）

2 視察先及び調査項目

（1）愛知県豊橋市

「ホール建設に至るまでの経過と現状、官民連携手法の利点と欠点について」

（2）長野県松本市

「ホール建設に至るまでの経過とこれまでの取り組みや再整備について」

3 参加委員

小松遼太（委員長）、イシワタマリ（副委員長）、片山正紀、塩見聡
大谷洋介、中村初代、高橋正樹（7人）

4 視察経費 総額 452,640円（1人あたり 56,580円）

5 調査報告

別紙のとおり

視 察 日	令和 6 年 1 1 月 1 9 日（火）
視 察 先	愛知県豊橋市 人口 3 6 7, 1 4 2 人 （令和 6 年 4 月 1 日現在） 市面積 2 6 2. 0 0 k m ² 議員定数 3 6 人
調査項目 施策・取組等	ホール建設に至るまでの経過と現状、官民連携手法の利点と欠点について
視察理由 事前研究等の 概要とそれ に基づく調査 項目・視察先 の選定理由等	福知山市で新文化ホールの再検討がされる中、官民連携 PFI 手法（BTO 方式）で建てられ公共建築賞や地域創造大賞なども受賞する穂の国とよはし芸術劇場 PLAT を視察先として選定した。 PFI 手法：民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法 BTO 方式：Build Transfer and Operate の略で民間事業者が施設を建設し、施設完成直後に公共に所有権を移転し、民間事業者が維持管理及び運営を行う方式
調査概要 調査項目の 施策・取組等 の実施状況等	・建設に至るまでの道程 ・建設前の市民説明や巻き込みなど ・座席数を約 8 0 0 席とした理由 ・要求水準書の内容や工夫 ・市内他施設との連携や位置付けなど ・建設費や運営費を抑えるための工夫 ・財団のメリットデメリットやマネジメントなどについて ・建設後の市民の声など
考察・効果	「演劇特化のホールを」と市民からの 20 年に及ぶ陳情があり建設されたコンパクトで高機能な文化芸術ホール。PFI 手法(BTO 方式)で、設計＋建設＋維持管理(15 年間)で総額 62 億円の事業費。大ホールは可変式で最大 778 席。舞台先端から客席最後部までの奥行きを 19m に抑えた親密感のある構成で、客席数以上に空間の魅力を感じられるホールであった。また、市民の舞台創造活動が積極的に行われる仕組みについても学び、市民の文化振興への思いや人材の育成が重要であると再認識できた。委員会として議員が共通のホールを見て、官民連携手法や費用を抑えた運営の仕方を学び、共通の認識を持つことができたことが何よりも有意義であった。
・政策提言への反映 ・本市での施策実現に向けた比較研究（効果及び課題）	・演劇特化のホールということで生の声が聞こえるコンパクトなつくりで、残響などについても意識したホール作りが重要である。 ・事業責任者に他で実績のある責任者を招聘することで、コンセプトを統一できることや次世代のひとづくりにおいても効果的な手法を行っていくことができる実感した。 ・外から見える構造や必ず通る場所ができるような動線作り、部屋にピクチャレールを設置し展示も可能にするなどが重要だ。 ・ステージ裏に 1 1 トントラックをつけられるかもプロの劇団などを呼ぶ際には重要だ。（4 トントラックでは厳しい） ・アフターコロナで平日の夜よりも平日の昼の公演のニーズが高い。 ・豊橋の規模のまちでも採算が取れるものではなく、1 館の収入支出で見るのではなく、波及効果や文化振興の効果などで見るべきだ。 ・席を稼働席にすると 2 0 年で修理が必要。本当に必要かを見極めるべきだ。

視 察 日	令和 6 年 1 1 月 2 0 日（水）
視 察 先	長野県松本市 人口 2 3 4, 1 1 1 人（令和 7 年 1 月 1 日現在） 市面積 9 7 8. 4 7 k m ² 議員定数 3 1 人
調査項目 施策・取組等	ホール建設に至るまでの経過とこれまでの取り組みや再整備について
視察理由 事前研究等の概要とそれに基づく調査項目・視察先の選定理由等	新文化ホール建設計画に反対運動が起こる中で、紆余曲折があり建設され、今では市民に愛されるホールとなった要因や文化芸術の先進地であることを理由に選定。
調査概要 調査項目の施策・取組等の実施状況等	・建設に至るまでの経緯、署名運動など反対運動の詳細 ・市民の声を効果的に取り入れる手法 ・総工費や年間利用料収入、維持管理経費などの費用面の詳細 ・現状欲しい機能 ・近隣のホールとの棲み分けや稼働率など ・管理運営手法について ・再整備計画の詳細や金額など ・文化振興財団が立ち上がるまでの経緯とメリットやデメリット
考察・効果	設計者の選定で「エスキースコンペ」を実施。運営は指定管理者制度。総工費は 145 億円で補助金は年間 6 億円ほど。松本市においては建設時に反対運動が起こり、市長の交代もありながら、今では反対運動をしていた人もボランティアなどでホールの運営に関わり市民に愛されるホールとなっている。建設費や運営費は本市において規模が合わないかもしれないが、それ以上に市民にホールを知ってもらおうとする行政側の姿勢や、説明会や研究会、シンポジウムなど多種多様な場を設け、賛否が分かれる市民を分けずに、どんなホールがいいかを学び合い対話する機会を設けたことも松本市の良い手法だと感じ、参考になった。また、建設して 20 年が経ち、修繕など再整備に高額な費用がかかることも確認でき、長いスパンでの建設、運営、再整備の費用を鑑みた建設計画が必要である、と感じた。 注釈 エスキースコンペ エスキース (esquisse) とは、フランス語でスケッチなどの下書きのことを表し、簡単な図面や図書で提案を公募し競わせること。
・政策提言への反映 ・本市での施策実現に向けた比較研究（効果及び課題）	・反対意見に真摯に答えるために多くの質問の回答を広報したり、勉強会を定期的に開くことが重要だ。 ・財団という形を取り専門性と効率的な管理運営を行うことも検討するべきだ。 ・市民の声を取り入れる方法として、陳情要望の受理、アンケートやシンポジウムの開催、議会も含めた検討講話会の開催、地元住民や旧施設利用者への説明会開催、公開質問状の回答など開かれた形での調査研究の場や議論ができる場所を作り市民の声を取り入れるという行政の姿勢や努力が、反対運動から愛されるホールになった大きな要因だと感じ取ることができた。 ・配慮すべきは駐車場、道路、景観・緑地、立地、環境である。